

見てきた。冒頭で述べたように光通信でのソリトンの実用化も目前に迫り、河や海、大気中でもソリトンは動き回っている。ソリトンは、案外身近な存在であることを知って頂ければ幸いである。

文 献

ソリトンに興味を持った方のために、いくつか文献を紹介して置く。

- 日本語の教科書としては
渡辺慎介：「ソリトン物理入門」培風館
非線形格子を中心に話が進められているので気象屋には読みにくい点もあるが、丁寧に書かれている。
- 英語であればたいへん優れた教科書がある。気象力学を学んだ人には Charney-Drazin の非加速定理でおなじみの Drazin による

Drazin & Johnson (1989) "Solitons: an introduction" Cambridge University Press
クノイダル波から逆散乱法に至るまで簡潔・明晰に書かれている。

- 本文中で引用した文献は
Daviak & Ge (1984): J. Atmos. Sci. 41, 2559-2573.
Lin & Goff (1988): J. Atmos. Sci. 45, 194-205.
Sandstrom & Elliot (1984): J. Geophys. Res. 89, C4, 6415-6426.
Zabusky & Kruscal (1965): Phys. Rev. Lett. 15, 240-243.

なお、ソリトンやモドオンと気象現象をテーマとした気象研究ノートの編集が現在進められている。本稿よりもっと詳細に議論が展開される予定なので、興味のある方はぜひこちらをお読み頂きたい。

第11回学術講演会開催案内

記

- | | |
|---|---|
| 1. 日 時：1991年11月28日（木）、29日（金） | 1991年10月15日（火） |
| 2. 場 所：中央大学駿河台記念館
〒101 千代田区神田駿河台 3-11-5
Tel. 03-3292-3911 | 5. 申し込先：
〒101 千代田区神田小川町2-8-6 三恵ビル
日本リモートセンシング学会事務局
Tel. 03-3293-0514 |
| 3. 講演申し込み締切：
1991年9月13日（金） | 6. 参加費：1,000円
予稿集代：4,000円（参加費免除） |
| 4. 予稿締切： | |

地球惑星科学関連学会連絡会の発足

昨夏の地球物理金沢会議（WPGM）をきっかけとして、地球惑星科学関連の諸学会が互に学会活動状況の情報交換を行なうため、去る4月に表記の連絡会が発足致しました。参加学会は、地震学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本海洋学会、日本火山学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本気象学会、日本鉱物学会、日本測地学会、日本地球化学会、日本地質学会らの10学会である。

連絡会は季刊のニューズレターを発行することになり、その1号が7月に発刊され、各学会の会長挨拶と学会概要が掲載されました。残念ながら配布部数が極めて少数ですので、関心ある方は学会事務室にて閲覧してください。ただし、主だった情報がある場合には天気誌に転載致します。
(総合計画担当)